

# 令和7年度 自己評価書

学校名	和歌山市立四箇郷北小学校
校長氏名	中 筋 美 恵
作成日	令和8年2月20日

## 1 教育目標

心身ともに健康で、豊かな知性と人間性を備えたたくましい子どもを育てる

## 2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
<b>重点目標</b> 【P】	◎基礎・基本の確かな定着 ◎子供主体の授業の推進 ◎家庭学習の定着 ◎読書活動の推進	◎仲間づくりの実施 ◎いじめの未然防止、早期発見 ◎道徳・人権教育の充実	◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ◎危機回避能力の育成	◎家庭・地域との連携充実 ◎中学校区における学校間の連携推進 ◎地域の資源活用の推進
<b>取組の状況</b> 【D】	○チャレンジタイム（昼の帯学習）、放課後補充学習による学力の向上を目指す ○理科学習の研究を軸に、子供が主体の授業づくりを推進する ○発達の段階に応じた家庭学習の手引きを作成し、活用するとともに自主学習ノートに取り組み、保護者と協力しながら基礎学力の定着と自ら学ぶ習慣を身に付けさせる ○朝読書、読み聞かせ活動により、読書習慣の定着を図る	○学級会等で、協力しあう風土の醸成を図る ○いじめアンケートを毎学期実施し、未然防止・早期発見・早期対応に努める ○情報モラルやネット社会に潜む危険性について、学ぶ機会をもつ ○学校図書館を常時開放し、読書する環境を整える	○なわとび記録会を開催し、なわとび運動の充実により、体力の向上を図る ○運動会を開催し、体力の向上に役立てる ○「早寝、早起き、朝ごはん」活動を推奨する ○避難訓練や交通安全教室を計画的に行い、危機回避能力を育成する	○各種便り（学校だより、学年だより、学級だよりなど）やHP等を通して積極的に学校の情報を発信するとともに、授業や行事等を積極的に公開する ○中学校区での学校間連携を充実させる ○授業のゲストティーチャー、読み聞かせボランティア、専門性の高い講師等の人材や、地域の自然・文化を積極的に活用する
<b>取組の成果と課題</b> 【C】	○11月6日に和歌山市教科等別研修会で理科・生活科の授業発表を行った（3学級） ○3学級で研究授業（理科・生活科）を行った（学校教育課訪問・校内研修） ○協議会で、市教育委員会等から指導助言の先生を招き研究協議を行ったことで、本校教員の授業力向上につながった ○年間通して、放課後フォローアップ教室を週2回行った	○学校だよりや学級活動等で挨拶の大切さを訴えたり、地域の方々に協力いただいた挨拶活動を行ったりしたこともあり、多少元気な挨拶の声が聞こえるようになった。 ○学校をあげて掃除時間中は私語を禁じ、無言で清掃活動に励むという「もくもくそうじ」に取り組んだ。真面目に取り組むことができる子どもも増えている。 ○少年センターを講師に迎え、情報モラルの授業を2・3・5年生で行った。低学年から行うことで、ネットの危険性について考える機会が増えて良かった。	○縄跳び記録会があることで、休憩時間に運動場に出て縄跳び運動をしている児童が多くなった ○運動会練習により、体力が向上が見られた。夏季は熱中症対策に配慮しながらの運動に気をつけたい。 ○毎年、年4回の避難訓練と警察と連携した交通安全教室を実施している。また、警察の方に来ていただき、不審者対応についての研修も行うことで児童への指導も深まり徐々に危機回避能力は向上してきている	○学校だよりには、できるだけ学校や各学年の取組を載せるようにした。しかし、学校ホームページはなかなか更新することができなかった。 ○「ありがとう集会」「シルバー交流会」など地域の方々との交流ができた。 ○地域先達による協働・連携事業や公民館活動において「ミシン・裁縫指導」を実施していただき、学校教育力向上に効果があった。
<b>次年度に向けての改善方法</b> 【A】	○楽しくて力のつく授業づくりに向けた研究の成果を発表会で提案する。 ○家庭との連携を深め、家庭での自主学習や読書活動の一層の充実を図る  ○チャレンジタイム（帯時間）の活用方法をより工夫し、基礎学力の定着や書く力の向上に取り組む	○3つの言葉をキャッチフレーズにすることで、日ごろの生活習慣を支援し、子どもたちの「豊かな心」育成に取り組むたい ①「にこにこあいさつ」 ②「もくもくそうじ」 ③「どんどんどくしょ」	○避難訓練を来年度も4回程度実施し、児童一人一人の危機回避能力の向上を図る。 ○定期的に「早寝・早起き・朝ごはん」への啓発活動に取り組んでいく。 ○運動会では、熱中症対策をはじめ、健康面や安全面に配慮した取り組みをすすめる。	○学校だよりを回覧板に入れていただける地区を増やしていけるようする ○民生委員や公民館の方々にも協力いただいている「ミシン・裁縫指導」を続けて頂くようお願いする ○次年度も多くの講師やゲストティーチャーを招き、子ども達の世界を広げていきたいと考えている

## 3 その他の課題

--